

平成 25 年 4 月 24 日

帝京大学 医療技術学部 柔道整復師学科

講師 廣瀬文彦

【研究事業名】

大学ラグビー選手に対するテーピングの効果

【目 的】

競技スポーツでは、スポーツ傷害の発生予防または再発予防する手段としてテーピングが行なわれている。テーピングはそれがない場合に練習や試合に参加できない選手もいる。そのため、スポーツ傷害を有しながら競技を続けている選手にとっては必要不可欠である。しかし、その効果の評価はテーピングを施された選手の主観的な判断である。そのため、テーピングを施すトレーナーも効果の評価に不安を有している。それを解消するためにはテーピングをした状態の動作の変化を客観的に分析する必要がある。そこで、客観的な効果を検証するために足関節テーピングを施した選手の歩行分析および走行分析を行なうことを目的とした。

【方 法】

関東大学リーグ戦グループに所属する白鷗大学ラグビー部員 2 名を対象に足関節のテーピングを介入条件として歩行動作分析および走行動作分析を行なう。対象者は昨年、足関節捻挫を受傷した選手である。足関節のテーピングは研究連携担当者でもある白鷗大学ラグビー部のトレーナーが施す。歩行分析および走行分析は zebrisFDM-T トレッドミル・システムを用いて行なう。

【結 果】

A 選手は、右足関節にテーピングを施した際に、右足底圧の平均最大値が増加した。
B 選手は、右関節にテーピングを施した際に、右足底圧の平均最大値が増加した。さらに、左関節にテーピングを施した際に、左足底圧の平均最大値が減少した。